

女子ラクロス試合の帯同中に発生した腓骨骨幹部二重骨折の一症例

○内藤 雅子（千葉接骨院），千葉 拓也（千葉接骨院）台東支部

Key words : lacrosse, 腓骨骨幹部骨折, 二重骨折, 横骨折

【初めに】

近年、柔道整復師がスポーツ現場に帯同する事が増え急性外傷と遭遇する機会は少なくない。

今回女子ラクロス試合中に発生した本症例を経験したので考察を交え報告する。

【症例】

20歳女性、試合後半開始後、シュートを打とうと走行、パスを受け左脚を地面に衝くと同時に、相手DFのブロックした膝が下腿に強打し転倒。独歩不能となり退場。

【所見】

異常な拍動痛、短腓骨筋付着部扁平化、腓骨遠位1/3部での外側凸の変形、足・足指関節運動増強痛により本症例を疑い救急搬送した。

【考察】

腓骨中下1/3部に直達外力が加わり腓骨骨幹部近位に屈曲Ⅰ型の屈曲力が作用し続け、腓骨下1/3部で屈曲Ⅱ型の骨折が起こり二重骨折になったものと考え。

【結語】

現場ですぐに診れた為腫れる前の変形や腓骨の陥凹などを視診・触診でき、早期に対応することができた症例であった。スポーツ現場には外傷の判断、応急処置ができる柔道整復師の役割は重要である。

